

平成26年度第2回さぬき市図書館協議会 会議要旨（要約）

- 1 日 時 平成27年2月9日（月） 13:30～15:30
- 2 場 所 さぬき市教育委員会2階第5・6会議室
- 3 出席者 [委 員] 合田誠 向山智恵子 井上綾子
有岡融代 石川智治 池田洋子
工藤衛一 松木みどり
[事務局] 安藤正倫 中野敏記 六車均
二宮澄夫 大山須美子 六車智穂 伊関謙一郎
[傍 聴] なし
- 4 議 題 (1) 平成26年度さぬき市図書館図書館事業中間報告について
(2) 平成27年度さぬき市図書館事業計画（案）について
(3) 図書館利用状況の推移について
(4) さぬき市子ども読書活動推進会議について
(5) その他
- 5 会議の内容は次のとおりである。

発言者	意見概要
(事務局)	会議に入る前に会議の公開について確認させていただきます。 (事務局より会議の公開等の取り扱いについて説明)
(委 員)	(公開することです承)
(事務局)	本日の傍聴はありません。 ただ今から平成26年度第2回さぬき市図書館協議会を開会します。 本日9名全員の出席予定でしたが、さぬき市PTA連絡協議会会長の石原委員が急病の為、欠席すると報告を受けております。 まずはじめに、池田委員長よりご挨拶をお願いします。
(委員長)	(委員長あいさつ)
(事務局)	ありがとうございました。 続きまして、安藤教育長よりご挨拶申し上げます。
(教育長)	(教育長あいさつ)
(事務局)	まず、最初に本日の資料について、ご確認させていただきます。
(委 員)	(資料確認)
(事務局)	それでは、議題に移りたいと思います。さぬき市図書館規則第2条第2項によりまして、議事の進行は池田委員長にお願いいたします。
(委員長)	それでは、議事に沿って進めさせていただきます。平成26年度さぬき市図書館事業中間報告について事務局から説明をお願いします。
(委 員)	議長、その前に提案があります。事務局さんからの説明資料があるので

	<p>すが、その資料が早く我々委員の元へ郵送されてきました。従って、委員の皆さんは資料をお目通しされていると思います。だから、事務局が一つずつ読み上げるのじゃなくて、案件に関する事で質問があれば話していただくほうが、後々いろんな議題もありそうなので、そちらのほうに時間を取ったらよいのではと思いますが、いかがでしょうか。</p>
(委員長)	<p>資料を読み上げないで、質疑応答に時間を取るということでしょうか。</p>
(委員)	<p>詳しくお聞きしたいところだけを、委員の方から事務局に質問するという形をとればいいのではないかなと。</p>
(委員長)	<p>事務局さん。どうでしょうか。要点だけを読み上げるということで。</p>
(委員)	<p>特別に説明したいところがあれば読み上げるという形で。</p>
(事務局)	<p>説明の時間を短くということよろしいですか。</p>
(委員)	<p>せっかく作られた資料なんで、素通りはもったいないと思うんですけど。</p>
(委員)	<p>でも、もう一回目を通してやったほうがいいのかと思うんですけど。</p>
(委員長)	<p>こういうご意見もありますが、どうでしょうか。</p>
(事務局)	<p>手際よく、簡潔にいきたいと思います。</p>
(委員)	<p>あと、後の議題になるが、アンケート結果の資料のほうはもうちょっと早く欲しかったと思う。これこそ、皆さんのご意見だなど、参考になるものなので早いうちに見たかったなと。</p>
(委員長)	<p>事前にいただいたのは、議題の資料だけだったのですかね。</p>
(事務局)	<p>はい。アンケート結果の資料は当日に出ささせていただきました。</p>
(委員長)	<p>これも、前もっての方が委員さんに見てもらえるので、事前に資料の方は送っていただけたらと思います。</p>
(事務局)	<p>(議題(1)平成26年度さぬき市図書館事業中間報告についての1.さぬき市図書館利用状況を説明する。)</p>
(委員)	<p>議長、質問いいですか。(4)の年齢別利用状況についてですが、12歳以下のを見ますと、利用者が多いんですよ。13歳以上からはそんなに多くないんですが、お母さんと一緒に来館したら、利用者数のカウントはどういうふうになるんですか。</p>
(事務局)	<p>市内の小学校に、入学する際に全ての児童に対して、カードを作りましょうと勧めます。その際にドーンと増えております。</p>
(委員)	<p>そういうことですか。カードを作ったから貸し出しができるわけですね。</p>
(事務局)	<p>はい。できます。</p>
(委員)	<p>だから、これに書かれている数字は、貸し出しされた方の数字なんですね。</p>
(事務局)	<p>そうです。従って、小学校に入学する前に、ご家族の方、保護者の方と一緒に来てその場で作る人たちが、一番左の端の列の0歳から6歳以下と</p>

	なります。
(委員長)	それと、ブックスタートをさぬき市が事業を行っているんですけども、検診日に、お母さんと一緒に図書館職員の説明を聞いて、カードを作って帰られる方もいらっしゃるのです。そういった方が図書館に来館されていると思いますので、4ヶ月のお子さんからの人数が入っていると思われま。そういった事業が大きく関わっていると思います。
(委員)	わかりました。それと、4ページの(6)分類蔵書数・貸出冊数の所で、分類蔵書数が増えたようなんですが、それぞれの貸出冊数ベストテンみたいな、今こんなタイトルが読まれているとか、こういうものにみんな興味を持っているんだなというのがわかる方が、面白みがあるんじゃないかなと思うのですが。単に、何冊借りましたとかだけじゃなくて。中身がどうだったかこうだったか、やはり世相が反映してこういう本が読まれているんだなとか、いうことがわかったほうが、より頭に入りやすいかなという思いがしたんで。その辺りがつかめるかつかめないかはわからないんですけども、もしつかめるのであれば、その方が面白いんじゃないかと思う。
(委員長)	そういう統計は、どうなんでしょうかね。そういう統計とかはとられていますか。
(事務局)	データで出すことは可能なので、資料につけることは可能です。
(委員長)	委員さんがおっしゃったように、それを検討していただいて、話題の本とか、そういうような形で出すことができればいいかもしれませんね。
(委員)	飛びつきやすいというか、そのようなデータがあれば、頭に入りやすいですね。
(委員長)	いろんな図書館が新聞に載っているですけど、読書通帳機っていうのは、まんのう町立図書館が、読書の通帳の形をとって、過去にどんな本を読んだかを記録する、そういう試みを行っている。そういうこともやっていますね。
(委員)	なるほど。それと、(8)の予約・リクエスト件数ですが、これなんかも、他の図書館からどんな本を借りたのかというのがわかれば…本のタイトルで可能ですかね。できませんか。
(事務局)	データに無いので、手書きになってしまいます。
(委員長)	委員さんがおっしゃったように、リクエストが多い本を、さぬき市の図書館に入れるとかの参考にはしているのですか。
(事務局)	もちろんです。予約が何件か入ったら、その時点で借りるというよりは購入の方に回しています。
(事務局)	余談ですが、人気本については高松とか県立とか大きな図書館にはものすごい予約が入っています。その予約の後ろの方が、さぬき市の図書

	館に回ってくるんです。そういう傾向もあります。
(委 員)	私の方は以上です。
(委員長)	それでは、続きをお願いします。
(事務局)	(議題(1)平成26年度さぬき市図書館事業中間報告についての1.さぬき市図書館利用状況の続きを説明する。)
(委員長)	質疑あればをお願いします。
(委 員)	1ページに、月別の利用状況の入館者数と出ておりますが、最近読書離れと言いながら、寒川図書館の方は、入館者が増えているという結果が出ているのですが、何か取り組みをされたのでしょうか。
(事務局)	別にこれといったことはないんですが、最近親子体操がB&Gの体育館で行われてまして、その親子体操の帰りに来館されるというのが増えてましたので、その影響かなと思います。
(委 員)	ありがとうございました。
(委員長)	他に何かありますでしょうか。
(委 員)	志度図書館の1階の左側、ふれあいコーナーでは年配の方が将棋を打たれてましたよね。あそこは、変わるんですか。誰でも入れるようにとか。元々誰でも入れるんだろけれども。どちらかという、年配の方が使う機能が高かったかなと思う。そこに、あえてといいますか、幼い子のために使用できるようになったんですか。どうなったんですか。
(事務局)	それでは、ふれあいコーナーについて説明させていただきます。建物全体は青少年交流プラザという公共施設になっておりまして、自動ドアを1枚開きますと、左手にふれあいコーナーがあって、2枚目の自動ドアを開きますと、図書館になります。そもそも設置目的は、市民の誰もが、願わくば青少年がという意味があるのですが、どなたでも開館の時間にご利用いただけます。ただし、お話しにありましたように囲碁将棋をされる方が、毎日25名程度いらっしゃいます。昨年の夏までは囲碁将棋の方が、テーブルを全面的に使っていたのですが、過去からも図書館を利用する方が飲食をする場であった、ほかの人がコミュニティを持つ場所であったりと、そうしていた方から、「入りにくい」と。高齢者の団体がほぼ全域におりませぬ関係で入りにくいというご意見がありまして。これはどうしたものかということいろいろ思案し、かつ、この該当する25名の方々ともかなりな数の話をさせていただいて、秋から、正確には11月1日からなんです。そこにあるテーブルの南半分に限って使用くださいというようお願いをいたしました。従って、北半分については、囲碁将棋をする方は使ってませんので、そこで休憩したり飲食したりおしゃべりしたりする場に使ってくださいというふうにしております。

(委 員)	わかりました。ありがとうございます。
(委員長)	畳の所に、将棋盤を置いてると思うんですが、あれはこれからも置く状態になるんですね。
(事務局)	毎日持ってくるというのも大変だと思うので。持ってくる方もいらっしやいます。
(委員長)	本当はあそこは置けない場所になっているんですか。
(事務局)	囲碁将棋盤の所有権はよくわからないんです。何せ古いもので。
(委員長)	そうですか。
(委 員)	囲碁将棋の方は意外とふれあいコーナーのテーブル使用のルールを守っているんです。それはよかったなど。
(事務局)	本当に話をしてみたら、とにかく分かってくれる人たちなんですよ。決して席を使わさんぞとは言わんとってくと、こんこんと言われました。 テーブルを見ていただいたらいいんですが、「囲碁・将棋○」それから「囲碁・将棋×」と、テーブルの上に表示しておりまして、皆さん、想像以上にそのルールを守っていただいております。
(委 員)	それはよかったですねえ。
(委員長)	それでは図書館運営状況について、説明をお願いします。
(事務局)	(議題(1)の2.平成26年度さぬき市図書館運営状況を説明する。)
(委員長)	質疑があればお願いします。
(委 員)	研修関係の所で、参加人数が少人数ですね。出席された方は、図書館に戻られたらこういう話があったとか、周知するためにお話しする機会ってあるんですか。
(事務局)	はい。両館のミーティングの時にです。
(委 員)	例えばそういう時ですよ。セミナーとか、図書館大会とか、どういったものかわからないんですけども、図書館大会って何ですか。
(事務局)	図書館大会は、県立図書館主催で県内図書館の職員が集まって、お話しをすると行ったことを行います。
(委 員)	お話をするだけですか。
(事務局)	色々研修を行います。
(委 員)	5人しか行っておられませんよね。5人というのは、さぬき市図書館だけでしょうか。
(事務局)	これは、寒川・志度図書館の参加人数を書いております。参加者全体の数字ではないです。
(委 員)	ですよ。それでは、こんな話がありました、こんな発表をしましたという発表会とか、連絡会というのはないんですか。行った人だけの知識のレベルアップですかね。それだけですかね。

(事務局)	それだけです。
(委員)	じゃあ、行かなかった人は何もわかんないということですかね。
(事務局)	行かなかった人には、行った人が資料を渡して、こういう話があったということを伝えています。
(委員)	それで徹底できますか。徹底するほどの話じゃないわけですか。これは、香川県の図書館大会だけじゃなくて、ほかの4つの研修を含めてです。こういう研修会なんか行って、どんなふうに活用されているのかなど。
(事務局)	例えば、平成26年度第1回図書館協会役員会、これは、志度図書館長だけ行くようになっております。自治体の図書館で複数ある館は、中央館というのを置いております。どの自治体でも。さぬき市図書館では、志度図書館がそうになっており、役員は志度図書館長になります。志度図書館長のみ参加となり、当日資料はいただきますので、それを持ち帰って寒川図書館へ送付し、志度図書館では職員に回覧するという程度でございます。
(委員)	私は、何もこの研修だけをどうのこうの言うのではなくて、市役所さんには前から「朝礼してくださいね」と、現在の状況がどうなっているかこうなっているか等話を話す時間があればいいと思っていました。それで、こういう研修会その他に出席された人も、帰ってこられていろんな話があった、こういう話は図書館にも大事だから知っとかなければいかんから周知する、そんなことで少しずついろんなレベルを上げていくことを目指すのが望ましいなというわけです。それで、朝礼もそうですし、そういったことに応じていろんなミーティングを通してですね、要するに最後にみんなで同じ景色を見たい。同じ景色をみんなで見るためには、同じ景色を見る目、考え方を統一しなければいかんわけですから。そんなことも含めて、じゃあどうあるべきかということを含めてみんなで知恵を絞ってやっていかないと。一人だけが飛び抜けていっても、誰もついて来ないんなら何にもならないわけだから。そんなことも踏まえて、要するにその職場なり係なり担当者なりが景色を見るためにはどうしたらいいか、ということですね、日頃から行動しとかないとまずいんじゃないかという思いがありまして、こういう研修を受けた後、その結果・成果なりをどんなふうに周りの人に伝えていっているのか、やっているのかやっていないのか、非常に気になる所なんです。それで質問したんですけどね。
(委員長)	委員さんからあったように、共通意識としてはどうですかね。
(事務局)	志度図書館におきましては、毎朝9時50分から、数分間ですがその日の内容について確認をします。ただ、図書館というのは毎日、曜日が変わる度にスタッフの顔ぶれが変わるんです。従って、その前の数日、後の数日は準備の都合もあります。前後の日も若干含めて当日の打合せもやっ

	<p>てます。</p>
(委員)	<p>はい。わかりました。</p>
(委員長)	<p>著作権セミナーについて、研修に行かれているんですが、これはボランティアさんにも関わってくるものですが、50年ですかね、著作権は。そういうことを、ボランティアさんは、例えば何かを作るときにコピーはいけないんですね。なので、そういう著作権の研修をですね、図書館の方が聞いてくれているのであれば、ボランティアさんにそういう研修会をしていただければと。何も知らないでコピーをしたり、何かの形で使うと絶対に著作権で言われますんで、確認を取らないといけない部分がありますんで。せっかく著作権セミナーで研修を受けられているのであれば、そういう、ボランティアさんを対象にした研修会を、図書館がやってくれればいいんじゃないかなと思います。機会がありましたら、是非教えていただきたいなと思います。</p> <p>ほかにありませんか。ないようでしたら、次の平成27年度さぬき市図書館事業計画(案)について、事務局から説明をお願いします。</p>
(事務局)	<p>(議題(2)平成27年度さぬき市図書館事業計画(案)について説明をする。)</p>
(委員長)	<p>質疑はありましたらお願いします。</p>
(委員)	<p>よくわからないんですが、ブックスタート事業のことなんですが、この事業は保健福祉の課も関わっているんじゃないでしょうか。でね、ここに9名の協議会委員名簿で載っているんですが、図書館条例では10名以内と書いているので、1名保健の課の方を入れたらどうかなと。個人的な考えです。それと、予算がすでに出ているんですが、実は図書館友の会で平成27年度に増田善昭さんの講演会をしたいので計画をしているんですが、いつもお金がなくて、ここ10年ゆめ基金の助成金を使いながらきているんですけども、ゆめ基金もだんだんと厳しい制約になってまして、それで、1年に1回読書に関する講演会をするそのお金なんですけれども、平均したら先生の交通費・宿泊費とかで15万円くらいでできるんですね。その講演会費というのを図書館側につけていただけたらありがたいなと。アンケートをとると、やっぱりみなさんその人の生の声が聞けて非常にいいという喜びの声があるんです。昨年も長野ヒゲ子さんを招いて、長野さんは全国の紙芝居協議会の会長をされてて、毎年夏休み、8月の第1土・日をかけてさぬき市にも関係のある剣淵町で講演をしているので、是非いらしてくださいという案内をいただいて、ネットで調べていたらそういうところをついつい見逃すんですけども、生の声でそういうご案内をいただいたら、そういうのをやっているんだなと情報もわかるので。読書に関わ</p>

	<p>る人をお呼びすると、みなさんに喜んでいただいているので、教育委員会の方で15万円の予算を付けていただけないかなと思うんですけど、私の想像する所によると、こういうのを付けたら図書館の職員が加わってしんどい目をせないかんのかなと。だけど、友の会に委託していただいたら、後援会の運営活動は、私たちが責任を持ってやりたいと思うんですけど、そういうあたりは難しいんでしょうか。それと、増田善昭さんの事で館長さんともお話ししたんですけども、ネットでも開いたらすごいんですね。四日市のメリーゴーランドの社長さんなんですけども、前回もちろっとお話ししたんですけど、牟礼北の3年生の子どもたちに、増田さんが素晴らしい紹介をしているんですが、学校教育としてもこの方を一度小学校へ、今日委員さんに先生もいらっしゃることで、増田さんと呼んで子どもたちに直接聞いてもらうために、お金が欲しいかなというお願いです。</p>
(委員長)	その講演会というのは、毎年行われているのですかね。
(委員)	はい。
(委員長)	今までもそういう苦労があるんですね。
(委員)	今まで私も図書館職員さんに事務的なものをお願いしていたんですけども、だんだん厳しくなって。
(委員長)	長野ヒデ子さんの講演はすごくよかったと思う。生で聞いてたら、感激しますね。
(教育長)	友の会ですね。予算を図書館に付けるとなると、ちょっと難しい。学校も、学校教育のほうですから。図書館の予算に付けるのは難しい。おっしゃることはよくわかるんですよ。
(委員)	わかるんですけど難しい。
(教育長)	そうです。それで、有岡さんが講演をされたらどうですか。
(委員)	お金が要らないように。
(教育長)	そういうことを、徐々にね。そういう熱意を高めていただいて。お願いします。
(委員)	教育委員会としては、難しいんですね。
(教育長)	そうですね。
(委員)	どこが難しいのか、ちょっとわかりませんですけども…わかりました。
(委員長)	ほかにありますかでしょうか。
(委員)	あの保健課の方を協議会に入れるというのはどうなんですかね。ブックスタートのこともありますし。また考えていただいたらと。
(事務局)	このメンバーの方が9人ということですよ。
(委員)	条例では9人と載っていなかったから。
(事務局)	実は、昔は母子愛育会が1人入っておったんです。それが現在活動停止

	<p>をしておりまして、空席になって、1年前にその席が埋まりそうにないんで、公募を3人募集したんですが、2名の応募でありましたんで、今1名空席となっております。</p>
(委 員)	<p>あの、ブックスタートの大事な所なので、そういう方に入ってもらって、こういうのを考えてもらったらいいなと思っております。</p>
(事務局)	<p>ブックスタートにつきましては、健康福祉部の方と連携をとって職員をそれぞれ派遣をしております。連携は結構とれているとは思いますが。</p>
(委 員)	<p>年度別の事業費内訳表の中身というか、だいたい出てくる形は毎年一緒なんですよね。それで、こういう「つながる図書館」という本が出ているのですが、図書館の運営に関してはいろんな書籍が出ております。この中で、今日も新聞の印刷が出てますように、いろんなほかの図書館でおありになっているいいことを色々とPRしていますが、それには、施設を改造というようなこともあろうし、人の問題もありましようし、単にやりましようやりましようだけで、本を読んで「この図書館はいいぞ」と、「だからこの図書館はこうしよう」と言ったところで、なかなか予算とかもありませんので。ただ「できないできない」でずっと行くのか、ある程度次年度では、あるいは30年度にはなんかカッコつけたいねとか、いうふうなことを、考えながら日々過ごすのも一つの道じゃないかと思う。その時に、このシステムあるいは施設を改造するんで、図書館のカギとしてこれこれしかじかのをやりましようということをやるのがいいのか、別の方向から図書館の使い方あるいはPRの仕方とか、というものを全体的に見回して、それで挙げるのがいいとか、それはわかりませんが。いずれにしても、今の志度にしても寒川にしてもこのままでいいという形ではないと思うんですよ。何かどこかで変えていきたい。後から出てくるとは思いますけれども、アンケートで児童のみなさんが図書館の使いにくさを挙げてますけれども、その中に、何がどうだから使いにくいというのが書いていないんですよ。ただ、使いにくいというような話なんで。そういったことも聞いてあげて、どういうふうにしたら使いやすくなるかですね。そんなこともやろうとすればお金がかかるのかなと思ったりして、そんなことも含めて、このさぬき市の図書館をこのままで止めないで、前進するにはどうしたらいいのか。そのためにはどういうアクションを前もってとっておかなければならないのか、ということを含めてですね、何か考えていかなければならない時期に来てるんじゃないかと思うんですよ。まあ、さぬき市誕生10周年も過ぎましたことですから、そういった将来に向けて先ほどありましたように、小学校中学校のみなさんが大きくなって「ああ、あの時通えてよかったな」ということを思えるような図書館でありたい。そうい</p>

<p>(委員長)</p>	<p>うふうにするにはどうすればよいか考えていかないと。「今年やったから来年もやる」という繰り返しじゃなくて、どこかで足元を見つめ直して変えていかざるを得ない時が来るんじゃないかと思う。そういうような話で、今すぐ予算をああだこうだという話ではなくて、こういったことも考えていかなければならない時が来ると思います。</p> <p>予算を考えてみますと、本当に事業が進むことができないと思うんですよ。でも、予算がついてしまうと、それ以上の事ができない時に、多分両図書館でも人数が非常に足りない状況なんじゃないかなと私も思うんですが。ちなみに私も新聞の中で見た香川県内の図書館で、観音寺中央図書館が「福袋」というのをを出していてですね、「年始に読書に親しむ機会を子どもたちに持ってもらおう」ということで、福袋を年始にしています。2015年1月3日の記事に載っています。それから、まんのう町立図書館は、四国初の読書通帳機を、先ほど話しましたがこういう試みをしております。自分が読んだ過去の本が、何を読んだのかわかるというようなやり方もしております。それから、「自宅に本を届けます」ということで、綾川町立図書館がですね、山間部に暮らす人や、育児等で図書館に来館が困難な人に、自宅に本を宅配するサービスを、こういう試みを香川県内の図書館で、3つの図書館が最近の記事で載っておりました。このように、図書館がいかにしていくかという工夫がですね、やはりしているところはしているとうことですね。でも、多分今の両図書館を見ましても、人数的に果たして…私も現場に出てないのでわかりませんが、図書館の館長さんはよくご存じだと思うんですが、人数的にはいろんな無理もあるかなと。そのためにはもっと予算をつけて、豊かな図書館にするには、なんといっても予算が必要なことなので、すごい工夫や意見があっても、予算と言われるとなかなか通じない、悲しいことだなと。有岡委員の話聞いてるとそう思いました。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>寒川図書館も平成3年に建てまして、文化財と一緒に並んでいます。私もまんのう町とか綾川とか、三木町とかも見学に行きました。今の寒川では形態が遅れているなど感じはするし、建物自身が2階がありますが、エレベーターがありませんし、大変障がい者の方には苦勞をかけているのではないかと思います。また庁舎の近辺となるのでどうなるかわかりませんが、寒川図書館としたら建て替えを希望したいなという気持ちはあります。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>確かに、寒川図書館の2階というのはですね、障がい者の方が使うことができない。悲しいことに2階に上がれないんです。何も障がい者に行けるようにはなってないんですね。非常に前から、初期の方から、ありますよね。それは館長さんとか現場で働いている人でないとわからない。そう</p>

	考えますと、館長さんが言われた通り他と比べると…。
(事務局)	ほかにありますでしょうか。ないようでしたら、次の図書館利用状況の推移について、事務局から説明をお願いします。
(事務局)	(議題(3) 図書館利用状況の推移について説明する。)
(委員長)	これについて質疑ありませんか。なければ次の議題(4) さぬき市子ども読書活動推進会議について、事務局から説明をお願いします。
(事務局)	(議題(4) 子ども読書活動推進会議について説明する。)
(委員)	先ほども触れましたけれども、4ページの「どうすればもっと読書をするようになると思うか」という問いに対して、「さぬき市の図書館を使いやすくする」とあるんですが、私も図書館を利用する頻度は高いと思っているんですけども、そんなに利用することに関して不都合とか感じたことはそんなには強く感じたことは意識してなかったんですけども、何をどうして欲しいんですかね。
(事務局)	そうですね。質問の表現として、図書館に対しては使いやすくするという簡単な表現でしているんですが、この中にはいろんな、自分が利用するのにあたって、これが使いづらいと思っていることがその利用者の方それぞれであると思うんです。それは、ハードに対して、建物に対してということもあるだろうし、本を利用するということについてもあるだろうし、例えば自習だけで使うこともあると思いますし、それはそれぞれになりますんで、そこは申し訳ございませんが、掬いきれていない質問であるかなとは思いますが。ただ、ここの選択肢を増やしてしまうとどうだったのかなというのはあるんですが。それぞれの立場で色々な使い方ができるのが図書なんだと思います。それぞれの使い方の使いづらさというのを考えてそこは少しずつは改善していきたいと思います。
(委員)	ただその改善するためにも、どこを押せばどうなるかわからないとどうもしようがないですよ。その辺りが、見えないんですよ。
(委員長)	具体的に挙がってきてないんですね。ただ使いやすくするだけの回答と。
(事務局)	そうです。質問の言葉は、使いやすくするということだけです。それぞれの方が、これが使いづらいといってることに関して、この質問では表面には出てこないですね。
(委員)	単に本を借りるという行為じゃなくて、図書館の、先ほども触れられたハード面、ようするに勉強したいあるいは本を持ってきて、教科書とか図書館の本とか色々見ながら何かをしたいとかという時にそういう思いがあったのか、それぞれあるんじゃないかとは思いますが。
(事務局)	色々あると思います。例えば開館時間を長くしてほしいとか、たくさんあると思います。

(教育長)	これは選択肢ですかね。
(事務局)	そうです。この質問に関する選択肢です。
(教育長)	「図書館を使いやすくする」というところに○を入れているということですね。
(事務局)	その後っていうのはないです。
(委員)	それをね、後から質問しようとは思ってたんだけど、この38ページの「寒川、志度だけでなく、長尾ならツインパルなど、大川津田それぞれに小さくてもいいので図書館があればいいなあと思います」とありますが、全部これに絡んでいると思うんですよね。先ほども言いましたが、このアンケート結果をもっと早く出して欲しかった。これだけの量は、なかなか大変だったと思いますが、工藤委員さんの話とそっくり同じことを書いてますからね。ここで、ぱっと言っただけではなかなか解決するようにはならないと思います。
(事務局)	ちょっと時間がかけられなかったので、お渡しするのが遅くなってしまって申し訳なかったなと思います。
(委員長)	この資料がもっと早く出ていれば、もう少し…結構大事なことを書かれていますからね。
(教育長)	今回ね、こうしようというというのはいかないと思います。
(委員)	アンケートを取って、この結果を分析してどうするのかを…
(事務局)	新しい推進計画を立てるのにあたっての基礎資料になりますので。
(委員)	できますか、これで。こういう質問、アンケートの結果が出る…
(事務局)	これは、前々からご説明しているように、全国での読書に関する質問それから県での読書に関する質問と合わせた質問にしています。そうすることによって…
(委員)	あの、アンケートを出して、その答えが何にも出なかったらアンケートに記入した人は、あまりいい感じはしないと思うんですよね。全部が全部回答してくれるとは思わん、と思いますけどね。
(委員)	これね、すごいみなさんの希望がいっぱいでてるなと思って。やっぱり本当に図書館というのは行政とある意味で、行政機関の、市民の人たちの声が聞こえることの支援にならなければと常々思っているんですけども、それを家に帰ってしっかり読みたいなと思っております。
(教育長)	アンケート出したらね、あとの仕舞いとかなかなか大変だと思います。
(委員)	私もね、このアンケートは丁寧に取られていると思うし、統計なんかも非常に丁寧に取られていて。それを効果的にね、生かしていただければなと思ったんですけども。例えば、「図書館に欲しい本」というのもたくさん希望がございましてけれども、子どもたちが読みやすいような本とか、今

	<p>から整理していくと思うんですけども、その中に、これは本だけの調査なんでしょうか。例えば幼稚園とか保育所とかであれば、紙芝居とかそういうものもあると思うんですが、私であれば、目で見て、こうしたいとか、借りていきたいなと思うんですけども。子どもたちに自由に、本だけじゃなく紙芝居なんかも借りて帰れる、親子で楽しみながら見るんじゃないかなと思ったりするんですが、そういった調査は、どういった紙芝居とかは図書館サイドでですね、決めなければいけないと思うんですけども。是非また、紙芝居なども取り入れていただけたらなと思って意見させていただきました。</p>
(事務局)	<p>いいでしょうか。前提としまして、このアンケート調査が要望をすくい上げる為のアンケートではなく、新しい子ども読書活動推進計画を立てる為の基礎資料となるアンケートです。で、このアンケートの質問を、県や全国的なアンケートの質問と同じものにすることによって、香川県の中でさぬき市はどうかということ、それから全国の子どもたちの中でさぬき市はどういうところに分布しているかというのをすくい上げたいと思ってこのアンケートはその目的として行っております。それに伴って、少し要望的なものも、もちろんすくい上げられたらいいなと思って、自由記入欄も入れております。そのように作成しました。</p>
(委員)	<p>今、お話があったように、それならアンケートの趣旨は分かりました。ただ、それをそのまま、あっそうご苦労さんだけで済ませるにはもったいないと思うんですよ。従って、さぬき市の図書館の運営ということで考えて、何かこれを題材にしてですね、詰めていけないかなという気はします。で、今日の今日でですね、何をどうしたらいいのかわからないんですけども、いずれも当協議会としては、ここまで調べられたんだったら、無視するにはもったいないと。みなさんお忙しいと思うんですが、委員のみなさんが集まってどうしたらいいかこうしたらいいかと案を出してもいいんじゃないかと思ったりしましたけれども。その辺りはどうでしょうか。提案ですが。</p>
(教育長)	<p>調査には調査本来の目的があると思うんです。今回は、そういう目的で事務局が調査をしました。しかし、この調査の中身自身は、見方によたらまたほかに活用できる。ただ、そういうことは、各委員さん方のいろんな理解いろんな思いで見えていただいて、こういうふうになるんだからこういうことはどうか。で、よく新聞にコラム載っているでしょ。A小学校はこんなことしました、B小学校は…というふうに毎日たくさん載るじゃないですか。私が校長の時に言われたことがあるんですが、「よそがしているのに、うちの学校は一つもしないじゃないか。」と言われたんです。いや、</p>

	<p>それはよその学校はしているけれども、香川県に何百、千は超えてある小学校で一つの学校が載ったわけですよと。それが、うちの学校で出来るとお思いですかと聞くと、う〜んと。こういう考えなんですよ。で、結局何かと言いますと、うちの図書館が出来る範疇、いわゆる範囲ですね。可能性のあるものの中でどういうふうにしていくかというのを探っていく必要があるかなと思っっているんです。で、ここに出ている欲しい本がある、そんなの買ったらいって、そりゃ誰でも買いたいです。だけど、買ったなら、それを所蔵する場所がない。県立図書館に、閉架の図書を置くために今から20年位前ですか、その頃に「こんな広い所作ってどうするんだ。」と県議会議員に叱られた。いやこれは閉架の本を置くためにあるんだと言うと、「閉架と言ったってそんなに溜まらんだろ」と。現在満杯です。だから、そういうふうなもので、結局うちの図書館が可能な範囲はどれだけか。どれだけ工夫したらこういうのが可能でないかというのを探っていたり、ご意見いただいたりするがこの協議会です。これを見ていただいてですね、なるほどこういうのが言えるんじゃないか、これはさぬき市の図書館で生かされるのではないかというふうなご意見を、今日に限ったことではないですので、ずっと先々の協議会の場にでもですね、前のこういう件からどうかご提案いただけたらなお充実するのではないかなと思います。</p>
(委員)	<p>もう少し時間があつたら、もう少し整理してまとめていけばいいですね。</p>
(教育長)	<p>そうですね。これは、データそのものですから。先ほども言いましたように、分析するには時間とか手間とかかかりますので、おいおいとして参りたいと思います。</p>
(委員)	<p>このアンケートですが、本校長尾中学校も対象になっていたかと思うんですが、その結果を早く送っていただいたと思うんですが、それをうちの1年生の結果ということで、早速学校だよりに掲載させていただきまして。特にこの中高生限定の「読書をしない理由」あたりで、「他にしたいことがあるから」というのは、クラブ活動もそうなんですけど、パソコンとかゲームとかスマホのほうに時間をとっているんじゃないかなというふうに推察しまして、そういったあたりでの、保護者や子どもへの啓発ということで、このアンケート結果を使いまして、本校は大変役に立っています。また、来年度あたりにさぬき・東かがわの中学校の図書館部会の集まりがありますので、そういった折にも、今の中学生の動向はどうかということで投げかけて、中学校の図書館の、来年の方向性の中で参考にできるんじゃないかなと思っまして。本校としては大変ありがたい資料と思っしました。</p>
(委員)	<p>問11の「読み聞かせは誰がしているか」というアンケート調査につな</p>

	<p>がると思うんですけども、お手元に四国新聞の2014年11月3日付け、先ほどの福袋の件でお話がありました観音寺中央図書館での取り組みの資料があるかと思うんですが、この読み聞かせをするのにあたって池田委員長さんがされておられる朗読グループどんぐりさんが、中学生の方に読み聞かせをしてくださっていると思うんですけど、中学生の方が池田さんたちからしてくださったことを今度、小学生の低学年とか幼稚園とか行って、小さい子たちに読み聞かせてあげられるように指導して差し上げてくださる、そういう活動になったらまた大変でしょうか。</p>
(委員長)	<p>実際にさぬき南中学校にとりあえず行かせていただいて、石田高校と、長尾中学校には2年ほど前に行かせていただいて、そういうことはやっております。実際に幼稚園・保育所に行ってふれあっている写真があります。要請があれば行かせていただくということで、こちらからは行きますとは言えないです。学校にも都合があると思いますので。時間的なこととか。こういった活動はさせていただきます。</p>
(委員)	<p>活動されているのであれば、いいと思うんですけども、お父さんとかお母さんとか、家族からだけ読むのではなくて、全然知らない中学生のお兄さんお姉さんとかから読み聞かせてもらったことが、また大きくなったら、それはまたいい意味で読書を好きになったりとか、情操教育につながっていくと思います。活動は大変であられるでしょうけれども、中学生の方たちに、そういう指導をして下さったら、子どもたちも…また、新聞に、読んでくださったら観音寺中央図書館は最近とても素晴らしいいろんな活動をしていて、また先ほど教育長さんがおっしゃっていたように新聞に載っているからしなければならない、それはひとつの図書館の取り組みであって、よその図書館がみんながみんな追って真似をしなければいけないというものではないのですけれども、これは本当にいい例というかそういうのを参考にしていい方向に流れていくというひとつのやり方、きっかけですね。</p>
(委員長)	<p>真似をするというのではないですね。こういうのがあるという刺激になればということですね。</p>
(委員)	<p>そうです。いいものがあれば取り入れていく。まあ予算とか…</p>
(教育長)	<p>長尾中学校さんは、幼稚園に行ってるんですか。</p>
(委員)	<p>毎年行っています。昨年度中学生が、幼稚園や保育所に読み聞かせをする仕方を教えていただいて。今後続く行事だと思います。また、何らかの形で教えていただくかと思います。</p>
(教育長)	<p>松木委員のおっしゃったように、観音寺の読み聞かせというのは中央図書館でしているということでしょうかね。</p>

(委 員)	図書館の中で行っていると思います。学校でやっているのではないと。図書館自体の取り組みですね。
(教育長)	そういうことなんですね。で、うちの図書館では無理ですね。
(委 員)	せまいですからね。
(教育長)	物理的に無理ですね。だから、長尾中学校さんのように、学校で幼稚園に出向いてする。さぬき南中学校も、幼稚園に行ってそうしている。その形態は違うけれども同じようなことをしている。そういうものを形態を変えてできれば。
(委 員)	観音寺中央図書館は、規模が大きい所だと思うんですね。だけど、形態は違って、模範になることはしていけば、子どもの数も減ってきていますから、お兄さんお姉さんと接していくということもとても大事ですし。
(委員長)	中学生にとっても、やさしくなれる部分だと思います。
(委 員)	最初は、保育所や幼稚園に行っても、中学生が職場体験でただ一緒に遊んでいるだけだったらしいんですけど、何か、本を読み聞かせるように自然になっていったとか、そういった流れがあったとかするみたいです。
(委 員)	小学校の方でも、今おっしゃったように読書ボランティアの方が、月に何回かという形で各学校を回っていただいて読み聞かせをしていただいています。その時の子どもの様子は、本当に見つめる。これだけ集中力があつたのかという様子が浮かんでくるんですけど、それをそこから学んで6年生が低学年の子どもに読み聞かせをする。
(委 員)	とてもいい話ですね。
(委員長)	色々な手段でヒントを得て、どこからでも読書を好きになるような取り組みをしていけばいいのかな。
(委 員)	そういうきっかけですものね。
(副委員長)	松尾小学校なんですけど、本校はあと何ヶ月かで閉校になってしまうんです。それで、新しい学校への、本の準備をしているところで、段ボール箱にだんだん詰めていっているんですけども、その間、本を読むことが出来なくなってしまうんですよ。ということで、寒川の図書館や県立図書館の方から本を借りてきて。そういうことを子どもに紹介すると、「大事に読みたいな」とか、「また違った本が読める」とかで、少しずつ何かアイデアを出したり、ちょっと手間をかけていろんな機会を作ってあげれば
(委 員)	いきなり「本を読みなさい」では、子どもも読みたがらないので。
(委 員)	簡単にはなかなかね。子どもの意欲というのは広がりませんが、やっぱり惜しまず色々なことをやっていかないといけないですね。
(委 員)	余談ですけども、読み聞かせってそんなに楽しいですか。本は読むものと思ってますので。聞くものじゃないと。

<p>(委員長)</p>	<p>小さい時からの読み聞かせの経験が多いほど、大きくなると人の話がよく聞ける。それで、家庭で親が読み聞かせをすることが、結局絆として残ると言われています。そして、言葉も想像力も豊かになるんですが、最後は思春期に何がブレーキが利くかという、忙しいお母さんやお父さんが3分間向き合って「あなたのためにしていることを家で示すことが思春期の頃に毎日繰り返すことでブレーキになる、ということです。なので、本当は家庭からの、小さいころからの読み聞かせが、本を好きになる原点なんです。だから、ある時突然図書館に行って、本を読みなさいと言って絶対に無理なんです。なので、小さいころからの家庭の読み聞かせというのが、家庭に本を入れましょうではなくて、読み聞かせを入れましょうということです。このキャッチフレーズがあるんですね。保護者が小さい子どもさんが図書館に行けないので、アンケートの中で「行きやすい」「遠慮して行けない。」というのではと、これが図書館を考える関原点だと思うんです。小さいのでひとりで行けないですからね。</p>
<p>(副委員長)</p>	<p>それと、最近子どもと保護者の様子を見ていて感じるんですけども、一時よりは小学生は読書ができていないんじゃないかなって捉えています。アンケートの中にも、保護者に「本を読むのは好きですか」というと、「あまり好きでない」というのが、32.8%あります。小学校の方では、2・3が60（にさんがろくまる）ということで、23日を含む一週間の中で、親子で読書をしたり、本について話し合ったり、いろんな時間を作って読書に親しみましょうという時間を作っているんですけども、家庭によって非常に差があります。本年度、松尾小学校で「ノーテレビノーゲームデー」を組んでみたんです。そうしたら、保護者の感想の中に、「テレビを見ずに、時間ができた中で、夕食時にしっかり話しながら食べられる。」「読書をする時間が増えた。」という声があったんで。少しずつですけども、読書の方に向くように、子どもを見ていて、時間を確保してあげないと本を読むこともなかなか難しい気がします。</p>
<p>(委員)</p>	<p>その読み聞かせが読書に変わる時期は、どれくらいから変わりそうな感じですか。耳から入る知識じゃなくて、目から入る、視覚から入る知識に変わるという時期が大事だと思います。いつまでも聴覚ばかりでは駄目ですよ。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>絵本から始まるんですが、「大人は字を読み、子どもは絵を読む」と言われる。なので、小さい子は見ることは非常に重要です。大人よりも絵本の中で状況が変わるのを見つけるのが早い。もう2・3歳くらいで字を読めない子は、絵を読んで大人の気づいていないところを気づいていくので、小さい時は耳で聞いて、目で見えだしたら絵も読んでいきますから、大人よ</p>

	りも絵の中を理解します。最近の絵本は絵がきれいだし、子どもがすごく見てきます。
(委員)	今、問題があつてですね、活字離れがありますね。それと逆というか、読み聞かせは活字離れになってきているんじゃないですか。
(委員長)	確かに、いろんな事情があつて本を読む子が少なくなったり、映像の時代なので一方通行のものを小さい時から、テレビのように一方通行、答えが返らないですね。絵本の読み聞かせは、親子が聞きながらできるということで、いいと言われているんですけども、本当に本を読むということは、小さい時からの家庭のお母さんやお父さんが好きでないと出会えないと言われている。学校の図書館やいい図書館があつても…
(委員)	読み聞かせは、そのきっかけを作ろうとして、読み聞かせをしているんですか。
(委員長)	ボランティアでですかね。ボランティアで行くのは月1回なんです。残念なことに。なので、本の楽しさだけ、「本はこんなに楽しいんだ。」ということ子どもたちが知ってくれて、家にかえって「お母さん、本を読んで」というようになるぐらいしかボランティアではできないですね。
(委員)	読み聞かせというのがね、どうも自分としては納得がいけないんです。
(委員長)	図書館の一番していただきたいこと、ここですよ。なぜかと言ったら、読み聞かせが…
(委員)	中学生や高校生なんてね、読み聞かせがと言つてね、だいたい常識的に…
(委員長)	もし、委員さんの奥さんが、委員さん前で「あなたの為に3分間あなたのために聞かせてあげる。」と言われたら、心豊かになると思いませんか。
(委員)	どうでしょうねえ。
(委員長)	わたしは、そういうふうにしてくれたら、心豊かになりますね。子どもには、もっといいですよ。
(教育長)	委員さんがおっしゃっているのは、例えば大人になつても読み聞かせがなかったら本は見ないので困るということです。
(委員長)	でも、本を好きになるには…
(教育長)	しかし、本を好きになるきっかけが、50歳にもなつてというのでは困るでしょ。
(委員)	それがいつですかということなんです。
(教育長)	そうそう。だから、本を読み聞かせ、昔は読み聞かせじゃなくて、お父さんやおじいさんが物語、話を寝物語としてあつたじゃないですか。だから、そういうものがこうして次は本・絵本にいつて、文字に行つて、そして小説にいくと。そういうふうな発達段階ができるんですが、その発達段

	<p>階が、うまくいかなくなっただけですね。テレビが出てきたり、漫画がでてきたり。だから、そういうことがあって、したことも一つはあるんですよ。だから、今読み聞かせがいいというのは、そういうのに飢えている子が多いんですね。だから、読み聞かせの感情の本出し、これも一部あります。でも、それが全てじゃない。</p>
(委員)	<p>私はね、読み聞かせをやったらね、理数系等がダメになると思うんです。確実に。</p>
(教育長)	<p>ゆくゆくはね、小学校の段階でも低学年と高学年とはずいぶん違うと。現実問題としたら。だから、それをいつまでもね、もたれてはいけなくて、文字の方へ。例えば、絵本をずーっと絵本がいいから絵本ばかり見せていて絵本以外を見なくなるのでは困るでしょ。だからそれが、絵本から次々と本にいくと。</p>
(委員長)	<p>教育長さん、本も好きになっていきますよ、自然に。それが段階がいつかというのじゃなくて、本を楽しみ、小さい時から本は楽しいものだと気づくことだと思うんです。本がいつ変わるかというのじゃなくて、自然に本の世界に入っていけるような、小さいころから本に出会っている子は。</p>
(委員)	<p>確かにインターネットでもね、そういうことを書いていたんですよ。ある日突然とは書いてたんですけどねえ…。</p>
(副委員長)	<p>子どもの現状を見ていると、確かに低学年の時には、絵もいっぱいある本が多いですから、本はどの子も好きです。で、そこから字の世界へ引き込まれていける子と、なかなかそこから脱することができない子が、その中学年あたりで分かれていくんです。それが何かと私もそこらが課題かなと思って、今考えているんですけども。やっぱり心情面でもっとのめり込んでいける子が、放っておいてもだんだん字の本に変わっていきます。それが上学年になってもずっと同じような、低学年が読むような本から抜け出せない子も中にいるんです。それで、学年が上がるにつれてその読み聞かせに求める部分というのは、やはりいろんな関わりの部分を、心が安定する部分を求めているなあとと思われる子も、上学年になると見られます。横から見ている姿は、どの子もが読み聞かせをして下さっている方に、食いつくような様子が見られる。これは不思議だなと思います。</p>
(委員)	<p>確かにね、聞いているのは楽なんですよ。</p>
(委員長)	<p>絵本もですね、YAの絵本と言って中高生向けのものがすごく出ているんです。</p>
(委員)	<p>読んでない文字とか全然ないですからね。</p>
(委員長)	<p>一番絵本に出会っていない子どもが、中高生くらいになって読んで欲しいのは、中高生向けの薄い絵本から活字に入ることが、私にはいいんじゃない</p>

	ないかと思えます。
(委 員)	まあ、これ以上の事は言いませんが、どうも納得がいけないんです。
(委員長)	また読んでみていただけたらと思えます。ほかに何かありませんか。なければ議題（５）その他に移ります。事務局から何かありますか。
(事務局)	（さぬき市図書館雑誌スポンサー制度の現状報告・志度ライオンズクラブからの図書寄贈について・さぬき市教育委員会からの感謝状の贈呈について（白井文子氏）志度図書館の月末休館の試験的変更運用についてを説明する）
(委 員)	月末休館日の変更については、市全体にアナウンスされるんですか。ここで話ししておしまいですか。
(事務局)	広報とか、来館者にはお知らせしますし、市民へのPR…
(委 員)	ようするに、市民の皆さんが「ああ、やってるんだ。」とかいうのがご存じないと、我々だけが知っててもねえ。
(事務局)	まずはここから、というふうに考えました。いろんな媒体を検討してみます。以上です。
(委 員)	また、苦情なんですけれども、教育長さんをお願いに行っただけなんですけれども、職員の継続について、それはダメだという答えはいただいているんですが、素晴らしい職員さんが育って行ってやっとなんかというのにまた退職されたというのが、いつも残念だなと常々思ってますので、さぬき市の条例で何とかならないのかなど。結局いい人材の人がもう入ってこないのではないかという気がしたりして、それを憂いております。
(教育長)	それはね、市民のみなさんからも要望がありまして、今回そういうのについては、少し改善を図られたようなので。
(委 員)	どんなふうに。
(課 長)	一応、基本臨時職員さんは1年契約なんです。ただ、基本的に3年間までは雇用を延伸できるということで。だいたい図書館の司書さん、臨時職員さんは3年間雇用するんですが、その人たちが継続をして3月31日また4月1日には雇用ができなかったんです。期間が全然空かないということで。ただ今回、今年の採用募集からは、この期間は空けなくてもかまわないということになりましたので、本人さんがもし継続してきたいというのであれば、これは改めて試験は受けてもらわなければならないんですが、一応継続で雇用できるように、だから私は図書館もそうですが、やはり経験した方というのは色々ご存じなんで、できるだけ長く勤めてもらいたいという希望がありますのでなんですけれども、今回も数人変わられますが、それはご本人さんの方で、「今回ひかせてもらいます」と。家庭や事情があたりだと思えますけど。そういうことで従来と比べると、雇用については

	<p>ご本人の要望があれば、試験は受けてもらいますが、平成27年4月1日からの対応については、そういうふうになりますので。</p>
(教育長)	<p>可能な限り、雇用継続できるようにしております。</p>
(委員)	<p>先日地震警報がありましたよね。前回誤報だったというのもあるんですが、初めてこういう警報がありまして、私はたまたま平賀源内記念館にいたんですけども、その時はたまたま来館者がいなかったんで、誘導というのはなかったんですけども、図書館はたくさんの方が入られていますよね。いつ行っても、何人かおいでますし、ふれあいコーナーにもたくさんおいでますし。当日幼稚園に行くことがあって、大変だったとか報告とかで教育委員会の方には挙がっていると思うんですが、図書館ではどのような対応をされたのかなと思って。</p>
(事務局)	<p>志度図書館で正規職員でその時にいたのは2名になります。あとは臨時職員でした。それで、警報が鳴った時に、館内もそうなんですが、個人で持っている携帯とかで警報が鳴ります。それこそ間違いの警報がありまして、どういうふうになるかは私も経験していたので、そうだなと思いつぐに正面玄関と裏口の扉を開けて出られるようにしました。地震の時にはすぐには飛び出てはいけないらしい。図書館としては書架の前にいらっしゃるお客さん方を、そうではないほうに誘導する必要があるそうです。本が降ってくるからですが、本が降ってくることでケガをする可能性がありますので、すぐに館内放送しまして、「書架の前にいらっしゃる方はカウンター前など安全な所に避難してください。」という放送をしたところで地震警報の待機時間は終わったと思います。特に揺れはありませんでしたが、一応館内を確認して大丈夫だったという感じです。</p>
(委員)	<p>記念館では多少揺れたんですよ。</p>
(事務局)	<p>そうですか。私も多少動揺していたので揺れたかどうかがわからなかったんです。私も、前回は動けなかったんで、反省もあって。</p>
(委員)	<p>私も、動けないんだなあとと思って。</p>
(事務局)	<p>わかります。その反省を受けて、ちょっとは動けたかなと。</p>
(委員長)	<p>ほかにございませんか。なければ以上で終わりたいと思います。事務局へ進行をお返しします。</p>
(事務局)	<p>池田委員長さん、議事の進行ありがとうございました。次回の図書館協議会なんですが、通例7月頃開催をしています。ずっと月曜日で進めていますんで、夏休み前の7月13日の月曜日を予定して諸準備を進めたいと思います。みなさん方もご都合それぞれ調整していただけたらありがたいなと思います。また、近づきましたらご連絡を差し上げたいと思います。それから第2点目といたしまして、みなさん方任期が半分終わることに</p>

<p>(委員長)</p>	<p>なります。6月1日からですから若干日数はありますが、年二回の会議を夏・冬と一回ずつ開催を終わりました。それで団体の組織の代表として就任されている委員さんが何人かいらっしゃいます関係で、年度が変わるような時期に、その団体の長といたしますか、変更がある場合があるかと思えます。そういった変更がありましたら、決定後速やかに事務局へご一報いただけたらありがたいかなと思います。私からは以上です。長時間ありがとうございました。では、閉会の言葉を池田委員長さんをお願いいたします。</p> <p>(閉会のあいさつ)</p> <p>これを持ちまして平成26年度第2回図書館協議会を終わりたいと思います。長時間でしたが、貴重なご意見ありがとうございました。</p>